

上越地域の生と性の教育

著者	徐 淑子
雑誌名	NICかわらばん
巻	233
発行年	2006-06-03
URL	http://hdl.handle.net/10631/733

看護大通信

21



新潟県立看護大学

講師 徐 淑子

お子さまをお持ちの方々は、わが子の心と身体の成長を、喜びをもって見守っていらっしゃると思います。その喜びの一方で、成長のスピードや変化の様子に、驚き戸惑う

こともあるのではないかと推察いたします。子ども

たちをとりまく環境は親の世代のそれとは大きく異なります。自分が育ってきた経験だけでは、子どもの見守りに自信がもてないという方もおられるのではないのでしょうか。

ことに、思春期の性をめぐる状況について、つかみ

どころのなさを感じている方は多いと思われます。

上越地域には、思春期の性の問題に取り組んでいる組織がいくつもあります。その中には、学校教育・行政（上越市および保健所）との連携の下、積極的な地域活動を展開している

会があります。ここでは、その一つについて紹介したいと思います。

上越助産師会の下部組織「生・性・SAY・結の会」は、子どもたちの心と身体の問題について「生涯を通しての健康教育」という観点から思春期講

座を企画し、小学校から高校までの各校からの要請に応じて出張授業を提供しています。助産師

という専門職業人の立場から、子ども育成に携わっていくという試みです。

講座の内容は、①かけがえない自分（いのちの伝承）②自分の身体を知る・肯定できる、③自己の確立と自立、④避妊・性感

染症予防のための具体的な知識と

演習、⑤メディアへの姿勢、⑥対等な性（人権を守る）と多岐にわたっています。

日々、人の誕生と性に接する助産師の特性を生かし、具体的・現実的なことから（避妊、病気の予防、身体のケアなど）と、「いのち教育」「人権教育」

をバランスよく取り扱っているとところに特徴があるかと思えます。PTA向きに講話をもつこともあるそうです。

このような社会資源の存在があることは、地域住民にとっては心強いのではないのでしょうか。今後も活用されることを願います。

上越地域の生と性の教育



大きさも重さも実物大。胎児の成長を表す手作り教材